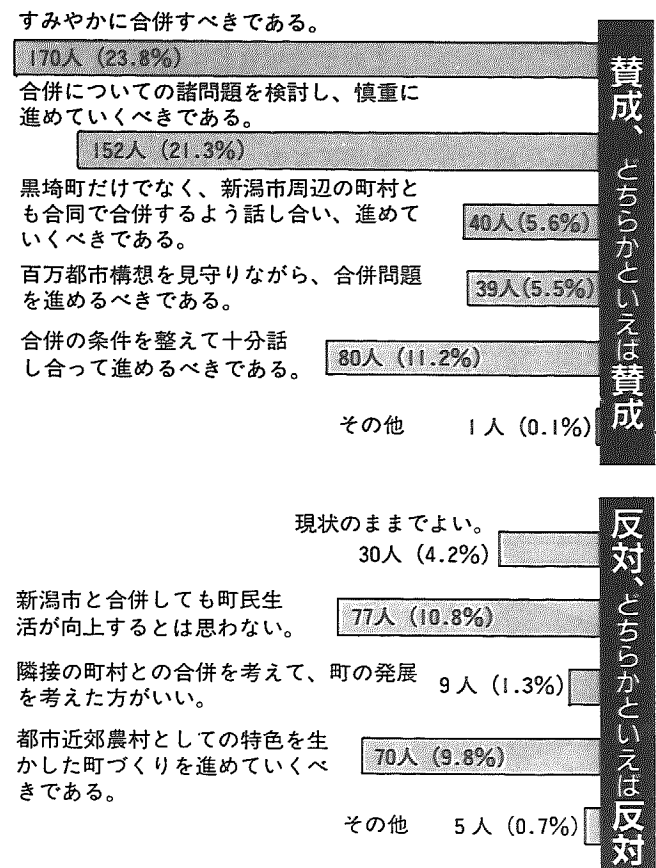


# あなたの考えはどれに近いですか？

5 (つづき)



すみやかに合併すべきである。  
合併についての諸問題を検討し、慎重に進めていくべきである。  
黒埼町だけでなく、新潟市周辺の町村とも合同で合併するよう話し合い、進めていくべきである。  
百万都市構想を見守りながら、合併問題を進めるべきである。  
合併の条件を整えて十分話し合ってから進めるべきである。

現状のままでよい。  
新潟市と合併しても町民生活が向上するとは思わない。  
隣接の町村との合併を考えて、町の発展を考えた方がいい。  
都市近郊農村としての特色を生かした町づくりを進めていくべきである。

「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた人のうち「すみやかに合併すべき」と答えた人が一七〇人(二三・八%)。諸問題を検討し、慎重に「周辺町村とも話し合い」「条件を整えて」などの条件つき賛成の人が三二二人(四三・七%)。

「反対」「どちらかといえば反対」と答えた人のうち、「合併しても町民生活が向上するとは思わない」と答えた人が多し七七人(二〇・八%)、ついで「都市近

郊農村としての特色を生かした町づくりを」が七〇人(九・七%)。今回のアンケートの結果について、浅妻町長は「条件つき賛成もしくは反対が多数をしめているが、今後、慎重に検討していきたい」と述べています。

なお、詳細な結果(男女別、年齢別など)については、今年度中に冊子にして公表する予定です。

## 黒埼町の今音

執筆 宮田栄門

### 善久青年会の活動(一) 昭和二十四年暮れ、善久青年会は村内に先がけ、公民館建設の計画にのり出す。

前号では昭和二十年代に活躍した善久青年会の音楽部「白バラ楽団」の活動を紹介した。今回は、その「白バラ楽団」も深くかわり、町内でもっとも早い時期にできた善久公民館の建設について紹介します。

善久が曾野木村西楚川新田から黒埼村善久に変わって間もない昭和二十四年の暮れ、同部落の青年会長・鈴木政秋は役員白川昭悟らと計

て、善久地区に公民館建設の計画を立てた。

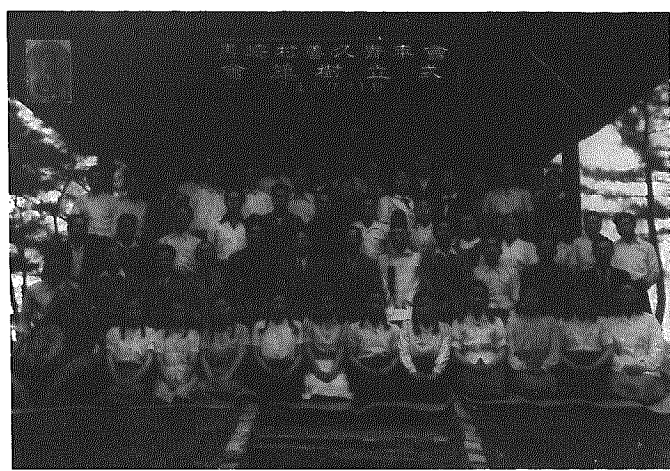
当時、黒埼の各部落には青年会場などの集会場を持つところはいくつあったが、曾野木から分離したばかりの善久(当時、川原を合わせ戸数四十数戸)にはこのような施設はまだなかった。そのため、部落の会合や青年会の会合などは、いつも個人の家を借りて行われてきた。公民館を建てようという計画は、こうした不自由さの中から発想されたものと思われる。

この二十四年六月十日にはGHQ(連合国軍が日本占領中に設置した総司令部)の占領政策の一環として社会教育法が制定された。その第五章に「公民館の施行」があった。一般にはまだ「公民館」の目的は不明、その名称さえ知らない人が多かった。善久青年会のこの計画は、まさに画期的なものであった。

の不足額約二十一万円を青年会が工面しなければならなかった。しかし当時の二十二万円は大きかった。それだけの収入を得るため、さつそく二十五年春から青年会員たちの資金集めの活動が始まった。

○「採種田」での種モミ取り  
善久部落には約一反歩ほどの共有田があり、毎年県外から部落共同で新品種の種モミを取り寄せ、これをまいて実らせ、部落の希望者に代金をもらって分与していた。この採種田を青年会が部落から借り受け、会員たちの労力奉仕(田打ち、苗植え、稲刈り、はき作りなど)によってこの収入を得ることになった。

○大盛館で楽団の興行  
期日が迫るとさつそく整理券を作り、会員全員が手分けして近郷町村に売り歩いた。売り上げは上々、大盛館の昼夜一回の興行は大入り満員の大盛況で、これによって七、八万円もの収入を得ることができた。



善久公民館建設に協力した善久青年会の男女会員の皆さん。昭和24年7月1日、善久の白山神社境内で。善久公民館はこの白山神社境内に建設された。

計画の中で青年会は、公民館の建設工場の予算もできるだけ部落に頼らず、「公民館は自分たちの手で」をモットーに、資金獲得に全会員が一丸となって協力することを決めた。

趣意書の提出を受けた部落総会は「今、部落にそんな金はなく、お前たちが金をつくるのであれば」と中に一、二の反対はあったが、一応承認の形となった。

二十五年に入ると、鈴木会長は村から補助金を得ようとは何回となく黒埼村役場に足を運び、当時の岡田村長に公民館建設の件を陳情した。公民館のことを詳しく知らない村長は「公民館って一体、何をやるのよ」と言ったというが、その半年ほど前に施行令が出たばかりというから無理もない。

鈴木会長は、どうしても公民館が無理なら部落集会場だけでも、とも陳情した。そして、公民館建設の承認がほぼ得られると、部落も青年会の事業を全面的にバックアップすることになった。

鈴木元会長の記憶によると初代公民館建設の総予算は約四十五万円である。収入の部として、村からの補助金十五万円と部落内からの寄付金七、八万円が集まった。そ

二十五年十一月、善久「白バラ楽団」は大野の大盛館を借り、資金獲得の興行をやった。前回で紹介したように学校や民家を会場に何回となくやってはきたが、本格的な劇場では初めてのだったので、みな緊張した。

また、楽団興行でたくさん収入をあげるには、前売り券をできるだけ多く出すよりほかにないと考えた鈴木会長は、前売り券の税の対策のため、自転車巻巻税務署を訪れ、公民館建設の目的と事情を話し、アドバイスを求めた。すると、趣旨を理解した職員は、前売り券として券を売れば税金の対象となるが、整理券とすれば税金がかからないと教えてくれた。

取材協力・鈴木政秋、白川昭悟、鷺尾末次(敬称略)



黒埼町全区

※路線や位置はおおまかなものです。